

## 「第67回人権週間」

自由及び平和の基礎となる基本的人権を確保するため、世界の全ての人々と全ての国々とが達成すべき共通の基準として1948年(昭和23年)12月10日の国連総会において、「世界人権宣言」が採択されました。

国連は、世界人権宣言採択を記念して、採択日である12月10日を「人権デー」と定め、加盟国に対し、人権擁護活動を推進するための各種行事を実施するよう要請しています。

日本でも12月4日から10日までの一週間を「人権週間」として、世界人権宣言の意義を訴えるとともに人権尊重意識の普及高揚を図るため、全国各地で啓発活動が行われます。

当町では、9月から10月にかけて「分館人権学習会」を開催し、「お互いの人権を尊重し、つながり・支え合い・共に生きる温かな町づくり」について学び、共に考える良い機会となりました。

また、「人権週間」に併せ、12月5日(土)には人権教育の推進と啓発を図るため、講師に三浦明利(みうらあかり)さんをお迎えし、老人福祉センターにおいて「第38回人権を考える町民大会」を開催しますので、大勢の皆さんご参加ください。

21世紀は人権の世紀です。すべての人々の人権が尊重され、平和で明るい町づくりを実現しましょう。

## 図書室だより

お願い

返却期限は守りましょう。本の予約待ちをしている人もいますので借りた本は期限内に返却をお願いします。

教育委員会

## 新着図書



## 「職業としての小説家」

村上 春樹(著) スイッチ・パブリッシング(出版)

誰のために書くのか、どのように書くのか、なぜ小説を書き続けるのか、小説を書くための強い心とは…。村上春樹の自伝的エッセイ。

## 「だから、生きる。」

つくみ(著) 新潮社(出版)

歌手、音楽プロデューサーとして成功を収める著者を突然襲った喉頭癌。声帯摘出に至るまでの壮絶な日々、なによりも大切な家族のこと、プロデューサーとして思うこと、そして声を失って歩きはじめたばかりの人生について綴る。

## 「君の臍臓をたべたい」

住野 よる(著) 双葉社(出版)

偶然、「僕」が拾った1冊の文庫本。それは、クラスメイトである「彼女」が綴った、秘密の日記帳だった。「名前のない僕」と「日常のない彼女」が織りなす物語。

## 「あん」

ドリアン助川(著) ポプラ社(出版)

どら焼き店のバイト求人を見てやってきたのは、70歳を過ぎた手の不自由な女性だった。彼女がつくる「あん」のうまさに、店は繁盛し始めるのだが…。

立科町公民館(教育委員会 社会教育人権政策係) 有線 4000

## 休館・休室のお知らせ

中央公民館並びに図書室を次のとおりお休みさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

## 館内清掃

12月6日(日)

(公民館は18時より使用可能)

## 年末年始休業

12月29日(火)～1月3日(日)

## お知らせ

「ちゅうりっぷの会」による

## 乳幼児のためのおはなし会

日時 12月16日(水) 午前10時30分～

場所 中央公民館 視聴覚室

対象 0歳児～

大型絵本・パネルシアターなど親子でお楽しみください!

## 図書室利用案内

## 開室時間

●月曜日～土曜日 午前9時30分～午後6時  
(土曜日は午後5時)

●日曜・祭日 午後1時～午後5時

\*お一人 5冊まで 2週間借りられます